

幸手GIGAスクール版

第3号

令和三年九月二十七日(月)

ムーブメントの活用

GIGAスクール構想の推進に係る、幸手市内の組織体制

一人一台の端末と高速通信環境の整備をベースとして展開されている「幸手市GIGAスクール構想」ですが、推進に係る市内の組織体制を御紹介します。

○幸手市学校ICT検討委員会：市内ICT教育の推進と諸問題の解決(推進上の協議、活用目標の策定・進管理、実践の紹介、フォローアップ、アプリ等の検討、活用上の問題の解決)を図ります。

○幸手市学校ICT推進委員会：校内のICT教育を推進するための企画、運営(年間活用計画の作成、活用事例の紹介)を行います。

○幸手市教育委員会事務局：市内ICT教育の推進方針と環境整備(アカウント等の管理、HPで情報発信、共有フォルダで事例の蓄積、次年度導入アプリ等の検討)を図ります。



↑詳しくはコチラ

幸手市立行幸小学校の取組

幸手市立行幸小学校では、井上弘江校長のもと、教職員の研修等でも積極的にICTを活用し、資質向上に努めています。二十二日(水)、行幸小学校の校内授業研究会に、幸手市教育委員会が訪問した際の様子を紹介いたします。

オンライン研究授業

新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、教職員の授業研究会を実施することが困難な状況にあります。「先生方がクラスで授業を参観すると密」「研究協議で先生方を集めてしまつと密」などが主な理由です。そこで行幸小学校では、ICTを活用したオンライン研究授業を行っています。

校に登校している児童が授業を受けている様子と、家庭でオンライン学習を行っている児童が見ている画面の両方を撮影します。次に、撮影した動画を教職員が視聴します。動画ですので、何度も見返すことができるのが利点です。

最後に、密を避けるためいくつかのクラスに別れ、リモートでのオンライン協議を実施しました。今回はZoomのブレイクアウトルーム機能を用い、オンライン上でグループに分かれて協議を深めました。外部からの指導者も同じくZoomでの参加です。

制限のある中でも、様々な工夫を凝らしている行幸小学校の取組でした。



幸手市立長倉小学校の取組

幸手市立長倉小学校では、幸手市学校ICT委員会の校長会代表である窪田和彦校長のもと、一人一台端末の活用を推進しています。二十一日(火)に幸手市教育委員会が訪問した際の取組を紹介いたします。

Formsの活用

「Forms」は、Microsoftが提供するアンケート作成ツールです。問題やテストなどを作成・回答したり、回答したデータをMicrosoft Excelにエクスポートしたりすることが出来ます。

この日参観した三年生の社会の授業では、「買い物調べ」を行っていました。「どんな物を、どんな場所を買っているのか」をまとめる際に、Formsを活用していました。

教師は事前に、Formsでアンケートを作成します。今回は、買ったものや行った場所を選択肢から選ぶ形式のアンケートにしてみました。児童が回答をすると、即座にその結果が反映される仕組みになっているので、集約結果をデジタルテレビに投影し、全員で共有していました。

「一番買っているのは野菜だ!」と、児童たちは目を輝かせていました。



ムーブメントの活用

ベネッセが提供するミライシードというソフトには、「ムーブメント」という機能が搭載されています。このアプリを活用すると、個人の意見を瞬時にクラス全体に共有し、他者の意見を取り入れながら自分の意見を見直すことが出来ます。

先ほど紹介したFormsと違い、誰の意見なのかを全員で共有しながら授業を進められる特徴があります。

児童たちは、自分と同じ考えの人の意見に「拍手」を送ったり、先生が行った「集計機能」により、なぜスーパーマーケットが一番行く店なのかを考察したりしていました。



職員会議での活用

授業参観を終え、職員室に戻ると、教務主任の先生が、タブレットPCを活用した職員会議の準備をしておりました。事前に資料をTeams内にアップロードしておくことで、職員会議のペーパーレス化が図れます。また、話し合ったことを即時に反映させることができるため、業務の効率化が図れます。授業だけでなく、このような校務での利活用も進んでいます。

目的ではなく手段

今回参観した社会の授業では、一人一台タブレットPCを、児童生徒の資質・能力の向上のための「手段」として上手に活用していました。多くの機能があるため、つい使わせること自体が目的となりがちですが、「児童生徒に身に付けさせたい力は何なのか。そのためにタブレットPCを活用できないか。」という発想で、今後も推進を図っていきたいと考えております。